



TITLE:

京大広報 No. 8

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 8. 京大広報 1969, 8: 27-28

ISSUE DATE:

1969-07-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209687>

RIGHT:

# 京大広報

No. 8

京都大学広報委員会

## 大学問題検討委員会の発足

既報の大学問題検討委員会の第1回会合が、さる6月28日(土)午前10時から楽友会館で開催され、総長から委員会要項と諮問事項の趣旨について説明があった。ついで暫定委員長として井上智勇委員(文学部)を、暫定幹事として河野健二委員(人文研)、長谷川博一委員(理学部)、平井俊彦委員(経済学部)をそれぞれ選出し、今後の会の運営にあたることとなった。

この委員会は、次回の会合でまず大学の未来像についてのフリートークキングを行ない、なお大学の未来像、教養課程の改善、総長選挙制度の改正の三つの部会に委員の分属を決め、検討を進める予定である。なお、総長から、調査審議の日程について、総長選挙制度の改正については8月末、教養課程の改善については10月末、大学の未来像については11月末までに、それぞれ一応の結論をまとめて報告するようとの希望が述べられた。委員会の調査審議の経過は、逐次委員会が広報する予定である。

[委員名簿]

文学部	井上	上野	智照	勇夫
	柿	崎	祐	一
教育学部	姫	岡	惟	勤
	相	良	常	一
法学部	高	瀬		男
	磯	村	名	哲
	野	口	昌	隆
経済学部	奥	田	昌	道
	島		恭	彦
	平	井	俊	彦
	浅	沼	萬	里
理学部	長	谷	博	一
	川	川	浩	哉
	那	部		正
医学部	田	中	道	重
	岡	本	重	夫
	太	藤		見
	稲	本		晃
薬学部	中	垣	正	幸
	山	科	郁	男
	穂	積	啓	一

工学部	武清	上水	善祥	信一
	槌	田		劭
農学部	中塚	本島	洋太	稔郎
	塚	川	桂三	郎
教養部	(未定)			
化学研究所	(未定)			
人文科学研究所	河野	健	二	
結核胸部疾患研究所	(未定)			
工学研究所	櫻井		彰	
木材研究所	樋口	隆	昌	
食糧科学研究所	森田	雄	平	
防災研究所	岸本	兆	方	
ウイルス研究所	今井	六	雄	
経済研究所	尾上	久	雄	
基礎物理学研究所	松田	博	嗣	
数理解析研究所	中野	茂	男	
原子炉実験所	柴田	俊	一	
霊長類研究所	川村	俊	藏	

## 評議会あり方検討委員会メモ

### 第4回(7.1)

今回は、まず評議会の最近2か年における審議事項等について検討し、これら具体例のなかから問題点をもとめることとした。この結果、とくに、総長の執行面における補佐機関としての性格の一面をもつとみられる部局長会議と、評議会との関係に関し問題が出され、それについて多くの議論があった。なお、評議会ならびに各部局内における評議員の地位について、種々の意見交換があった。(事務局)

## 月曜会メモ

### 第16回(6.30) 司会 遠藤隆一 会員

各部局から、ここ一週間の大学改革の動向について報告があった。ついで6月29・30日の事態について、半田良一学生部委員の出席を求め、詳細な経過の報告を願った。

議事に入る前に平井俊彦会員から発言があり、「大学問題検討委員会と月曜会との合同の話合いの場をもちたい。また、月曜会で現在まで討論された大学問題の内容を大学問題検討委員会に知

らせてほしい」との希望が大学問題検討委員会からあった旨、報告された。

これに対し種々討議した結果、月曜会の性格として統一見解を出さないのが原則であるが、「月曜会としては大学問題検討委員会との組織的な結びつきに疑問がある。双方の会に重複している委員が個人的に情報を提供することとしたい」、また「月曜会の討議内容は京大広報を見てもらいたい、詳細については個人のメモなどによって承知してもらいたい」、「現段階では合同の話し合いの場は考えていない」、という点では、多くの異論がなかった。

前回から予定していた議題は、時間の都合上、討議に入ることができなかった。

今回は「学部・研究所の改革、改組」を主として問題とすることになった。（遠藤隆一会員）

## 6月23日および29・30日

### の事態について

6月23日（月）午後3時頃から、京都府学連集会在図書館前で、全京都全共闘集会在時計台前で、それぞれ学外者を交え開催された。午後5時15分頃、後者が市中デモへ出発するため隊列を組んで学内を巡り始めたとき、その一部が、前者の集会参加者の一部と接触し小ぜり合いを起した。これがきっかけとなり、投石、角材使用等衝突の規模が拡大した。

はじめ、図書館前広場を中心に、争っていた双方の集団は、一進一退を繰り返していたが、午後6時20分頃、その争いの場は本部表門付近と文学部建物周辺に移り、その間、表門付近においては、門外から火焰ビンが投げ込まれ、バリケードおよび木造扉が焼失した。この騒ぎも午後7時40分頃平静になった。

次に、6月29日から30日にわたり本学において起こった教養部自治会代議員大会の開催をめぐる一連の事態は、おおむね次のとおりである。

6月29日（日）午後3時頃、翌30日の教養部自治会代議員大会の成功を期する教養部自治会執行部およびこれを支持する学生がヘルメット姿で図書館周辺に集結し、本部表門・西門を固め、その一部は午後4時50分頃から、封鎖されている文学部新館の解除に実力を行使し、一時混乱した。

これに対して教養部構内に集結していた代議員大会粉碎を唱える反対派学生がヘルメット姿で午後6時10分頃から行動をはじめ、本部表門から時計台建物両側への路上で激しい衝突が繰り返された。

この衝突の最中6時37分頃、機動隊が自主的判断に基づき本部表門から入構して規制したので騒ぎは治まり、6時47分頃機動隊は学外に出た。

その後7時57分頃から9時4分頃まで、府警に

より、さる6月23日の本部表門焼失事件と、6月29日当日の学生間の乱闘事件に係わる現場検証（本部表門、時計台両側）が行なわれた。

また、6月30日（月）午後7時10分頃から同11時頃まで府警により6月29日の学生間の乱闘事件に係わる教養部構内、理学部地質学鉱物学教室の捜索が行なわれた。

同日午前11時30分頃から代議員大会粉碎を叫ぶ反対派学生が時計台前で集会を開き、そのあと、二隊に分れて本部裏門と北門に集結した。北門を固めた学生が、北部構内にはいろいろとして同門と理学部南門を結ぶ今出川通りにバリケードをつくったので、路上に待機していた機動隊と裏門および北門付近で衝突し、12時55分頃これら学生の一部は理学部構内に入り、大部分は本部構内にはいったため、これを追って機動隊が本部構内と北部構内にはいったが、学生がひいたので、そのあと大きな混乱もなく、午後1時20分頃機動隊も学外に出、平静に戻った。

### 大学問題に対する法学部のとりくみの現状

1月末以来、法学部教官としては、大学問題検討のための法学部全員委員会の中で、教官各自の知識を深め意見の交換を行なってきたが、それはあくまで教官個人の研究を増進するのが目的であった。しかし今度いよいよ教授会としてこの問題を取り上げ検討すべき時期が到来したと判断されるにいたったので、次のような方法で検討のための準備をはじめることになった。

その方法として、4名の準備委員を中心に今後の検討の仕方を調整した結果、教授会での検討を促進するための便宜として、さし当り、カリキュラム、教養課程との関係、大学院制度、図書問題、部長選挙権、教授会運営、経理問題を具体的な検討の対象として、必要な場合には分科会の形式を採用しつつ、従来の制度に検討を加え、今後問題となるべき点を明らかにすることになった。

なお、上述の問題の検討に際しては、あくまでも予備的段階として結論を留保しつつ、教授会全体の相互の見解を整理し、これを前提として一個または数個の方向を抽出し、その結果を部長の責任においてとりまとめ、学部構成員の討議にまつべきものについては、討議資料としてこれを学部全構成員に公示し、その資料に対する討論、意見などを通じて全構成員の見解を吸い上げる方法をとる予定である。

### 人文科学研究所所員会の

#### 大学立法に関する声明

このたび国会に提出された「大学の運営に関する臨時措置法案」は、学問研究の自由な発展を著しく阻害するものである。したがって、われわれはこの法案に対して強く反対する。

昭和44年6月26日

京都大学人文科学研究所所員会